令和７年度　　総　括　評　価　表

児安小学校

重点課題	１　「確かな学力」の育成	２　「豊かな心」の醸成と人権教育の推進	３　「健やかな体」づくりと安全教育
重点目標	① 基礎学力の定着と活用する力の育成 ② 読書習慣の定着 ③ 言語活動の充実	①互いのよさを認め合う仲間づくり ②人権尊重精神の醸成 ③豊かな情操や感性の育成	①健康的な生活習慣・運動習慣づくり ②食育指導の充実 ③安全教育の徹底
児童	①基礎学力の定着と活用する力の育成に関して 「計算が正確にできるようにがんばっている（90%）」や「タブレットを使った学習は楽しい（86%）」は依然として高い水準を維持しており、教室内でのICT活用や基礎的な計算への学習意欲は高く保たれているが、家庭学習習慣の低下が顕著な課題である。「家で次の時間以上学習している」が68%から52%へと16ポイントも減少しており、半数近くの児童が目標時間（1･2年は20分、3･4年は40分、5･6年は60分以上）の学習を達成できていない。また、漢字の定着・活用への意識も低下傾向にあるため、粘り強く指導していきたい。 ②読書習慣の定着に関して 読書習慣の定着が本年度の大きな課題である。肯定的回答が50%まで落ち込み、児童の2人に1人は自発的な読書ができていない状況である。家庭での読書記録カードの活用方法や、学校での朝の読書時間の充実など、児童が読書に親しめる土台作りを検討していきたい。 ③言語活動の充実に関して 授業中の傾聴や発表への意識は80%から86%へと高まっており、言語活動のベースとなる「聴く・話す」姿勢は確実に向上している。ただ、聞く・発表する姿勢は育っているものの、①の家庭学習の低下とあわせて考えると、「学んだことを定着させ、自ら活用する力」へとどう結びつけていくかが今後の課題だと考える。校内研修等を通じて、授業力の向上とともに学びに向かう力の育成について研修を深めたい。	①互いのよさを認め合う仲間づくりに関して 「友だちと協力して仲よくしている（93%）」は非常に高い数値を維持しており、良好な人間関係の土台ができている。ただ、「認めてもらえる」という自己有用感（91%から83%）や、「いじめをしていない」（99%から91%）の数値がやや低下しているため、些細なトラブルや言葉遣い、互いの良さを認め合う活動（認め合いのメッセージ等）を日常的に行いながら、なかまづくりに取り組みたい。 ②人権尊重精神の醸成に関して 「わるロや陰口など、人の嫌がることを言わない（R7は「いじめをしていない」）」が97.0%から91%に減少しており、また、R7の「いじめをしていない」においては、「あまり思わない」「思わない」と答えた児童が一定数存在しており大きな課題である。相手の気持ちを考え寄り添う指導や、人権意識のさらなる高揚のため、スマイル班活動や、人権学習を通じて、人権意識の涵養を目指したい。 ③豊かな情操や感性の育成に関して あいさつへの意識は90%と高く維持できているが、そうじに主体的に取り組む姿勢が86%から79%へと低下している。校内美化や黙動・時間いっぱいの清掃を通じて、豊かな情操や奉仕の心を育む指導に力を入れていきたい。	①健康的な生活習慣・運動習慣づくりに関して 「外で遊ぶ・運動する」の項目が74%から82%へと大きく向上した。 体力向上や外遊びを推奨する取り組みが、児童の行動変容に結びついた大きな成果だと思われる。ただ、「早寝・早起き・朝ごはん」は79%とやや苦戦しており、夜型の生活や朝食欠食の児童へのアプローチ、家庭との連携が引き続き求められるため、協力を仰ぎながら進めていきたいと考えている。 ② 食育指導の充実に関して 給食の好き嫌いなく食べる意識が93%から80%へと、13ポイントも大幅に減少している。アレルギーや個別の事情は考慮しつつも、食への感謝や栄養バランスについての食育指導を再強化する必要があるため、家庭と連携しながらともに進めていきたいと考えている。 ③安全教育の徹底に関して 「交通安全や防災について学んだことに気をつけて生活している」という質問に対して、96%という極めて高い交通安全・防災意識が維持されている。避難訓練や交通安全教室などの安全教育が児童の意識に深く根付いていることの表れと捉え、今後も推進していきたい。
保護者	①基礎学力の定着と活用する力の育成に関して 児童データにおいて「家での学習時間」が68%から52%へと激減したが、保護者から見ても「学習習慣が身についている」が78.5%から70.5%へと明確に低下している。また、保護者側の「わかる授業への信頼度」も96.3%から90.5%へ、個別指導への信頼度は93.5%から86.3%へと低下している。授業内容や子どもの学習状況について、教職員として現状を真摯に受け止め、宿題の意図や授業でのがんばりの可視化などをより丁寧に行いながら改善を図りたい。 ② 読書習慣の定着に関して 「家庭で読書をする習慣がついている（おうち読書など）」の回答は59.8%から54.7%まで減少しており、改善が急務な項目である。学校・家庭が一体となった「読書環境づくり（メディアコントロールや読書タイムの推奨など）」を進めていきたい。 ③ 言語活動の充実に関して 「学校は、自分の考えをもち、積極的に意見交換や発表ができるよう指導している」ことに肯定的に捉えている保護者は、92.5%から84.2%まで減少している。教職員は言語活動（スピーチや話し合い）の指導に手応えを感じ、児童も授業中の発表に自信を深めている（80%から86%に向上）。校内での「活発な意見交換や学	①互いのよさを認め合う仲間づくりに関して 「お子さんは、仲良く楽しい学校生活を送っている」の設問に肯定的に捉えている割合は91.6%から90.5% （ほぼ横ばい）であり、児童が感じる「友だちと協力して仲よくしている（93%）」とも合致している。保護者の信頼を損なわないよう、今後も継続して良好な人間関係の土台を継承していきたいと考えている。 ②人権尊重精神の醸成に関して 「家庭で、いじめや差別の不合理について話し合う機会を設けている」の設問に対しては、76.6%から81.1%に向上した。教職員データにおいて「学級集団づくり」の自信が低下し、児童データでもいじめや認め合いの指標が低下した部分を、保護者が家庭で主体的にアプローチしてくれている証だと捉えている。今後も、学校・教職員の危機感を保護者と共有しながら、なかまづくり・人権意識の高揚に努めていきたいと考えている。 ③豊かな情操や感性の育成に関して 「学校は、様々な学校行事や外部講師による講演などを通して、豊かな情操や感性の育成に努めている」の設問に対して、92.5%から91.6%と高い水準でお認めいただいていることを感じた。今後も、様々な体験を通して、児童の自尊感情を高めていきたい。	①健康的な生活習慣・運動習慣づくりに関して 「家庭で、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身につくよう心がけている」の設問は 89.7%から84.2%と減少しており、「家庭で、子どもに適度な運動（外遊び含む）を推奨している」は77.6%から77.9%（横ばい）であった。児童データでは「外遊び・進んで運動する」が82%へと大幅向上しており、保護者の理解と協力により、体力の更なる向上が見込まれると考えている。また、「早寝・早起き・朝ごはん」を心がける保護者の割合は84.2%に減少しており、児童の生活習慣乱れを改善するにも、保護者への啓発活動を進めたい。 ②食育指導の充実に関して 「家庭では、栄養バランスのとれた食事に努めてい」の設問に対し89.7%から82.1%に減少した。児童の「好き嫌いなく食べる」も大幅に低下（93%から80%）しており、学校での指導を強めるだけでは児童の食への意識改善は難しいと思われるため、家庭を巻き込んだアプローチ転換を工夫し、方策を検討したい。 ③安全教育の徹底に関して 「学校は、防災や交通安全などに、保護者・地域等と連携して取り組んでいる」は93.5%から88.4%

	び合い」の様子が参観授業等でお見せできていないことが原因ではないかと推察するため、児童たちが学んだことを発揮できる場作りを進めていきたいと考えている。		へと減少したものの、「家庭で、防災や交通安全などについて話し合っている」の設問は72.9%から75.8%に向上した。今後も家庭の協力を仰ぎながら、学校・家庭が一体となった命を守る指導を進めていきたい。
教職員	①基礎学力の定着と活用する力の育成に関して 教職員のICT活用への意識は高まっており（「よく」が向上）、児童側も「タブレットを使った学習は楽しい（86%）」と高い水準にあるため、授業内でのICT活用は高いレベルで定着・継続している。ただ、教職員側はドリル等の反復学習による定着に「全員が肯定（よく5＋やや6）」しているが、児童の「家での学習時間」は68%から52%へと大幅に低下しており、教職員と児童の意識の乖離が最大の課題だと考える。また、教職員の「教材研究」や「遅れがちな子への支援」の自己評価（よく）が下がっている点も重要な課題だと認識している。わかりやすい授業を目指し教材研究を進めるとともに、宿題の出し方や家庭との連携を見直すことで、児童の家庭学習の習慣化に結びつけたい。 ② 読書習慣の定着に関して 児童データでは「自発的な読書」が66%から50%へ激減し、現在校内で最も深刻な課題となっている。にもかかわらず、アンケート自体に項目がなかったこと自体由々しき課題であると認識している。本年度は、③言語活動の充実と関連して考えていたことを改め、教職員アンケートにも単独項目に明記し、分析を行うよう改善を進めたい。 ③言語活動の充実に関して 教職員が言語活動の充実（スピーチや話し合い）に力を入れている（「よく」が増加）結果が、児童側の「授業中に友達の話を聞いて考えたり発表したりしている（80%から86%に向上）」という成果にダイレクトに結びついており、学校全体の取組が明確に児童に反映しているものと考えられる。継続した取り組みを今後も進めていきたい。	①互いのよさを認め合う仲間づくりに関して 「学級集団づくり」や「ほめて育てる」は、全員が肯定（よく＋ややで100%）しており、教職員のベースの意識は高いと思われる。ただ、令和6年度は「学級集団づくり」に対し教職員の10名が「よくあてはまる」と強い自信を持っていたが、令和7年度は2名へと激減した。これは児童データにおいて「認めてもらえる」という実感が91%から83%へ低下した実態を、教職員として危機感を持って重く受け止めている表れだと感じている。人権学習に積極的に取り組みながら改善を図りたい。 ②人権尊重精神の醸成に関して 「児童の実態にあった人権学習ができている」という項目に対し、全員ができていると返答があったものの、よくできていると答えた割合が昨年より減少傾向にあることが課題だと考えている。児童データにおいても「いじめ（悪口・仲間はずれ）をしていない」が99%から91%へ低下している。そのため、組織として人権教育・仲間づくりの手法を再点検し、教職員と児童がともに「知る・気づく・行動する」の合い言葉の基人権教育を推進したいと考えている。 ③豊かな情操や感性の育成に関して 他の項目と同様、よく＋ややできているを合わせると全員が肯定的な返答をしているが、あいさつ指導の「よく」の減少に伴い、児童の「進んであいさつする」も微減しています。また、児童側の「掃除をしっかりする」の低下（86%から79%）とも連動し、日常のきまりや心を育てる指導において、教職員側の手応え（よく）が全体的にトーンダウン（「ややあてはまる」へ移行）している点が課題である。教職員自体が課題意識を高め取り組む重要性を再確認し、学校経営を進めていきたい。	①健康的な生活習慣・運動習慣づくりに関して 「日々の生活の中で、児童に体力がつくように努めている」という教職員の質問に対し、肯定できない教職員の割合がやや増加している点が課題である。児童データで「外遊び・進んで運動する」が74%から82%へ大幅向上したことは喜ばしいことであり、運動意識の高い教職員のリードのおかげで、学校全体としての運動機会を創出が担保され、児童に好影響を与えていると考える。教職員間の取り組みの温度差の是正に努めたい。 ②食育指導の充実に関して 教職員は「食育指導を行っている」の返答に対し「よくあてはまる」が前年度比で２倍に増加しており、指導をかなり強化した手応えを持っている。しかし、児童側の「好き嫌いせずに給食を食べる」は93%から80%へ大幅に低下し、意識の乖離が大きな課題だと考えている。「偏食の改善に結びついていない」、あるいは「指導が負担に感じられている可能性」があることを念頭に置き、残食指導のあり方や、家庭との連携などの見直しを進めていきたい。 ③安全教育の徹底に関して 「防災や安全について機会をとらえて指導してい」という質問に対しよくできていると返答した割合は前年度比２倍に達した。教職員側が意識を高く持って指導を強化した結果、児童側の安全・防災意識も96%という極めて高い数値を維持できていると考える。今後も学校全体の取り組みを継続していきたい。
地域	【総評】 全体として、地域の皆様から見る「児安小学校」の子どもたちの姿や学校の教育活動に対して、比較的高い評価をいただけた。子どもたちの明るい様子や、学校が地域の人材・特色を活かしている点に強い実感が寄せられている。一方で、「学校の情報発信（様子を伝える工夫）」や「開かれた学校づくり」において、わずかながら課題も見られることも示されており、改善を図りたい。		
	【成果】 ○生き生きとした学校生活と「あいさつ」の定着に関して 「子どもたちが生き生きと活動する、多様な学校行事ができている（よく：8名、やや：3名）」、「子どもたちは、元気、やさしく思いやりがある（ともに肯定率100%）」と、運営委員の方から非常に好意的に見られている。「子どもたちは、あいさつができている」で、『よくあてはまる』が8名と高水準であった。児童自身の「進んであいさつする（肯定率約92%）」という自己評価が、地域でもしっかり実践されていると考える材料となった。 ○地域連携教育に関して 「学校は、地域の特色や人材を取り入れた教育活動を行っている」は、肯定率100%（よく：7名、やや：4名）であった。また「防災・安全など地域と連携（肯定率100%）」も含め、学校が地域に根ざした教育を大切にしている姿勢が評価されたと思われる。	【課題】 ○交通ルールや社会のきまりに関して 肯定率は100%だったが、『ややあてはまる』が7名と過半数を占めていた。大きな問題はないものの、登下校時のマナーなど、もう少し見守りや指導を継続してほしい」という地域の細やかな視線が伺えた。 ○学校の情報発信と「開かれた学校」への課題意識に関して 「学校の様子をわかりやすく伝えている」において、『あまりあてはまらない』が2名あった。また、「保護者や地域の人々に開かれた学校である」でも、『あまりあてはまらない』が1名あった。このことについては、保護者の自由記述にあった直前の情報共有で困る」という課題にも通じており、学校内の様子や行事の予定が、地域や家庭にタイムリーに届ききっていない側面があると認識している。これらの点は、改善すべき項目として取り組んでいきたい。